



故きを温ねて、新しきを知る  
〜帯広葵学園のあしあと〜

帯広地区「光る泥だんご展」を終えて  
ー 11月は松崎町でー

学校法人帯広葵学園

理事長 上野敏郎

帯広の森幼稚園とつじが丘幼稚園の第5回「光る泥だんご展」が、今年は10月8日から14日まで帯広市役所で開かれました。この「泥だんご展」は、いつもは帯広市図書館で開いてきました。もう、帯広葵学園の大切な行事になっています。ところで、今年の帯広市はいつもと少し違います。それは、今から140年前、静岡県の松崎町から依田勉三さんをはじめとする27人がこの帯広にきた年だからです。この団体を「晩成社」と言います。

その頃の帯広は、大きな木がたくさん生えていて地面が見えないくらいでした。とても人々が楽しく暮らせるようなところではありませんでした。分かりやすくいうと、「泥だんご」のような帯広だったのです。

その地域が、10年もたつと今の水光園から帯広神社にかけて集落をつくり始めます。帯広で最初の集落ができたのが明治26年でした。

もちろん、順調にその集落ができたわけではありません。たくさん失敗や誤算を重ねたのです。

このことは、子ども達がつくる「光る泥だんご」ができるまでと似ているとは思いませんか。最初は、まったく同じ泥だんごです。その泥だんごが、一人一人の子ども達の手で磨かれ始めると、なぜか少しずつ違った泥だんごに変わっていきます。

そして最後には、その違いを微妙に見せながら光るのです。不思議なことです。正に、「光る泥だんご」の魅力はそこにあります。

この「光る泥だんご」を教えてくれたのが松崎町です。この帯広の土に、一番最初にクワを入れ原野を畑に変えてくれたのは静岡県松崎町からきた「晩成社の人々」でした。今年は、その「ひと鍬」から数えて140年目です。松崎町に、晩成社に感謝したいと思います。

11月11日から14日まで、帯広の森幼稚園とつじが丘幼稚園の子ども達がつくった「光る泥だんご」は、第42回松崎町芸術祭の会場で見事に輝くことになっています。そして帯広葵学園は、そこからまた歩き始めたいと思います。

10/8～10/14 帯広市役所にて開催 【泥だんご展】の様子

